

### 市展の幼児・児童・生徒の部

特選、入選など決る

第十七回南国市展の幼児・児童・生徒の部の入選作品などが、このほど決まりました。出品総数は、一万三千四百五十五点、入選は、千二百四十五点、特選は百九十四点。この中には、幼児の部の特選は設けられていませんが、なかなかの狭き門となっています。出品部門別では、図画の部が出品四千八百二十一点に入選六百四十三点、特選四十四点、版画の部が出品一千四百八十八点に入選百四十二点、特選九点、デザインの部が出品一千八百八十八点に入選百五十五点、特選七点、彫塑工芸の部が出品一千三百七十三点に入選三百四十八点、特選二十八点、そして写真の部が出品十八点に入選十二点、特選二点となっています。また、習字の部では、毛筆が出品一千六百一十五点に入選三百五十七点、特選三十六点、硬筆が出品二千八百八十二点に入選五百九十九点、特選六十八点となっています。

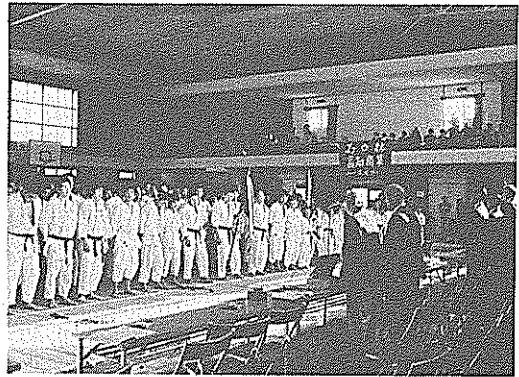
市展の幼児・児童・生徒の部の入選などは、一般の部より早く決りますが、展示は一般の部と同様十一月二十七日から二十四日まで市民体育館に展示されます。

### 市民体育館で県下柔道大会

第十回県下南国柔道大会が、十一月二十日(日)午前九時から市民体育館で開かれた。

参加したのは、県下三十四チーム。うち一般が二、高校が十一、中学が九、小学が十二の選手が参加し、二百余名の柔道愛好者たちが集った。

団体では一般が飛崎道場高校が高知商、中学が愛宕中、小学が中村スポーツ少年団がそれぞれ優勝した。また個人では、小学校の部で中村がひとりじめした他に、南国市では沢本昌司君(香長中一年)が中学段



### 年金で南国市が表彰

十一月は、国民年金普及推進月間。この一環として、このほど南国市が社会福祉庁から優良団体として表彰されました。

現在、市内には約百六十人の納付組織があり、これらの人たちが保険料の徴収に協力、高い検認率(保険料の納付状況)など年金事務の充実から今回の表彰となったもの。国民年金は、厚生年金や船員保険、各種の共済組合などに加入していない二十歳から五十九歳までのすべての人が対象。市内では約一百万人が加入しています。

### 市連合婦人会が生活用品の再利用展

「物を生かして使う工夫」をテーマにしたリホーム展が、十一月十七日、社会福祉センターで開かれた。

これは市連合婦人会が研修会を通じて行ったもので、婦人が創意工夫して考えた生活用品の再利用の品物約六十点を展示した。この中には、テレビの中古を利用して作った物入れや、大正七年に



### 社会福祉大会開かれる

第十二回南国市社会福祉大会が十一月八日、社会福祉センターで開かれました。この大会は、社会福祉に関する研究や討議を目的として毎年開かれているもので、民生委員などの関係者ら約四百四十人が参加しました。小笠原市長の「ヨーロッパ旅行より帰って」と題した講演や、市のゴミ問題や社会福祉に関する現状報告に、参加者は熱心に聞き入っていました。

また、これまで社会福祉の発展と推進に功績のあった人々が表彰されました。▽市長表彰・宮本忠夫(余勢中沢信蔵、浜田一雄(前)、奴田原繁蔵(物部)、北村久寿喜(後免町)▽大会長表彰・北村久寿喜(頭石竹内春、橋本前(重改田)、森田隆雄(折年、岩原栄喜(志保)、和田幸重(西部)、吉田益子(篠原)別役千代寿(後免町)▽大会長感謝状・中村明記(小龜、他九名

### 参加者募集、12月20日までに申込を

第四回はし挙大会を南国市観光協会の主催で次の要領により開催します。ふるって、参加してください。

▽とき 昭和五十三年十一月二十一日(土)午後一時より

▽ところ 南国市立体育館

▽参加規定 一チーム三名(男女不問、南国市民に限る)

▽申込期間 十二月十日より十一月二十日まで、市役所産業経済課

内南国市観光協会へ

▽参加料 一チーム千五百円

▽試合方法 団体戦、個人戦としトーナメント方法による(日本はし挙協会競技規定により行う)

▽詳しくは市役所内観光協会へ問い合わせください。

☎2111 内線221

【産業経済課】

### 今月の催し

- ◇老人囲碁将棋大会
  - ▽とき 12月10日(土) 12時~受付、13時~開始
  - ▽ところ 社会福祉センター
  - ▽一般の人もどしどし参加ください
  - ▽おたずねは社会福祉協議会 ☎4444
- ◇文化財講座
  - ▽とき 12月16日(金) 13時30分~15時30分
  - ▽ところ 市役所四階大会議室
  - ▽中世の城と町
  - 島田豊寿氏(高専教授)
- ◇中央高齢者教室
  - ▽とき 12月22日(木) 10時~15時
  - ▽ところ 社会福祉センター
  - ▽講演「老人の日々の暮らし」新しい社会と老人のつとめ

### 天狗の化身、山四郎

ようとする。家人が驚いてたずねた。「今日はどこへお出かけですか。」「ちよつと友人に面会に。」

「返事もそこそこ、行き先もつげずにそそくさと出かけて行った。門を出て、山道にかかると、これは不思議山四郎は、そのまま、空中高く舞い上った。家の者が、あれよあれよと、手をあげ、足を踏みならして、見上げるのを尻目に、真夏の白雲の中へ姿をかくしたのである。

これはきつと天狗に化されたの



天下泰平の元禄の頃、上倉の郷土に山中山四郎という豪の者がいた。彼は武芸を好み、学問に精出していた。そして、時々木剣を片手に、山に登るのであった。

「何事ですか、また今日も出かけてですか。」「武芸の練習だよ。天狗に、飛切りの術を習いたいと思つて。」

こんなことの続いた、或る日のこと、山四郎は、身を清め、新しい着物に着かえて、出かけ

### 善意の箱

■上陸内の島本輝郎さんから、亡くなられたお母さん、亀治さんの香返返しを社会福祉に役立ててほしいと、このほど現金五十万円が社会福祉協議会に届けられました。

■稲生小久保の小松敏さんから、亡くなられたお母さん、亀治さんの香返返しを社会福祉に役立ててほしいと、このほど現金二十万円が社会福祉協議会に届けられました。どうもありがとうございます。